



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4273 号 2018.3.21 発行

“気付けなかった”をなくしたい NHK ニュース 2018年3月20日

電車に乗ってた。

優先席にヤンキー風な人が座ってた。

杖をついたお年寄りの方が入ってきた。

スーツの人がヤンキー風な人に注意をした。

ヤンキー風な人は渋々席を譲った。

お年寄りはスーツの人にお礼を言った。

《あるツイートより》

見た目だけでは気付けないことがあります。

(ネットワーク報道部記者 栗原岳史・飯田耕太)



ひと事とは思えなかった

ある若者が、山手線でたまたま目にしたことを説明したツイート。次のような結末が書かれていました。

ヤンキー風の人は電車をおりた。

足を引きずっていた。

気づけなかった。

この場に居合わせたのは、松村凌太郎さん。「クローン病」という腸に炎症を起こす原因不明の難病と闘いながら、俳優として活動しています。香港出身の映画スター、ジャッキー・チェンに憧れ、アクションの多い稽古や舞台ではけがをすることもあります。

トレーニングに行くためにたまたま乗った電車の中で見たその光景は、ひと事とは思えなかったそうです。

「自分も外見からはわからない病気がある上、以前、足をけがした時に優先席に座る資格があるのかなのか考えたこともありました。見た目じゃわからない病気やけがと闘っている人はたくさんいることを知ってほしいし、見えない所にも目が向けられる社会になってほしいと思う」(松村さん)



多くの反響が

ツイートには、多くのコメントが寄せられました。

「膝の靭帯を延ばしてしまい、膝サポーターで固めないといけなくて、脚を伸ばしていました。すると『若いもんが優先席で脚伸ばして座ってんじゃねえ!』と怒鳴られ、つえをついて席を立ちました。それ以来、どんな事があっても優先席には絶対座らな

いと固く決めたのでした」

『俺も足をけがしてて』なんていうコミュニケーションが成されないところが『日本人の

問題だよなあ』と思うのは私だけ？」

「優先席だけ空いているのを見ると、譲り合い下手な集まりなんだと思うことがある」
さらに、こんな指摘もありました。

「私は免疫の病気で関節が痛くなるのでヘルプマークつけてます。若いから健康と決めつけられるのはつらいです。ヘルプマークももっと浸透してくれればと思います」

ヘルプマークって何？

ヘルプマークとは、義足の人や外見からは判断しにくい病気の人などが、まわりの人から配慮や援助を得やすくするために、東京都が6年前に作ったマークで、都営地下鉄の駅などで無料で配布されています。去年8月の時点で19万個を配布しました。

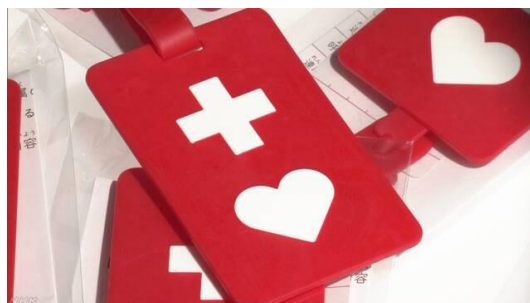
利用者からは「発作で倒れた際に、救急隊員がヘルプマークに書いてあったかかりつけの病

院に気付いて連絡をしてくれ、一命をとりとめた」というエピソードや、「電車の優先席などでヘルプマークを見せて事情があると伝えることができ、とても気が楽になった。お守りのように使っている」という声が寄せられているそうです。**足りないし！メルカリで売ってるし！**

こうした中、ヘルプマークに関する別のツイートが注目されました。

「困りましたね...フリマアプリ内での売買が後を絶ちません...。皆の税金で作る必要な方に無料で配布している物で儲けようと商売しているんですよ...」

ヘルプマークを買わないでください」ヘルプマークが、フリマアプリのメルカリで、いくつも売買されていたのです。これを見



ヘルプマーク広め隊
@help_mark720

フォローする

困りましたね...フリマアプリ内での売買が後を絶ちません...
この行為は、皆の税金で作る必要な方に無料で配布している物で儲けようと商売しているんですよ... 😞
ヘルプマークを買わないでください 🙏

自作のヘルプカードは売らずにご自身でお使い下さいね。

た人からは...

「ヘルプマークを転売！？信じられないっ！！」



「ヘルプマーク、欲しくて窓口に行く
と大抵『品切れ』『入荷未定』と断ら
れます」

「送料当方負担で構わないので郵送
等、ご検討頂けないものでしょうか
...」

憤りのほか、ほしくても手に入らない、
お金を出しても買いたいという声が
相次いでいました。

必要な人に寄り添うヘルプマーク
渋谷みち代さん

買わないよう呼びかけていたのは、ヘルプマークの普及・啓発を行う民間の全国ネットワ
ークのメンバーです。

2年前、このネットワークを立ち上げ、自身も100万人に1人の肺の難病で1日の大半
を寝て過ごさなければならないという渋谷みち代さん（55）に話を聞くと、ヘルプマー
クが病気や障害がある人にどう受け入れられているのかを話してくれました。

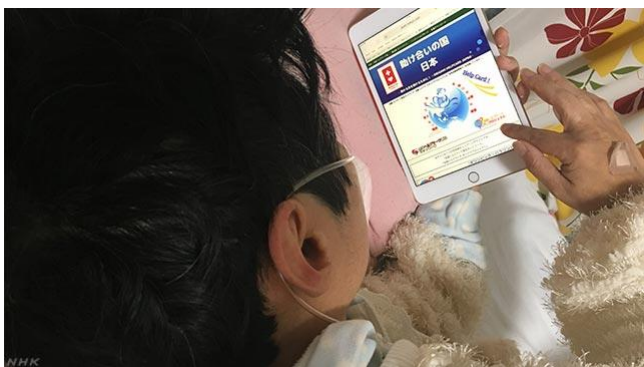
内閣府のホームページには、障害者であるこ
となどを周囲にわかってもらうマークが、ヘル
プマークもあわせて11種類掲載されていま
す。

たとえば、この緑色の矢印が書かれたマーク。
耳が不自由なことのほか、聞こえない、聞こ
えにくい人への配慮を表すマークです。

ハートにプラスがあるマークは、心臓、呼吸
機能、じん臓、ぼうこう・直腸、小腸、肝臓、

免疫機能の7つに障害がある人を示してい
ます。それぞれ障害や疾患別に作られていま
す。

ところがヘルプマークはこうした区別があ
りません。渋谷さんは、『この人は何らかの
ハンディがあるんだ』と一目で分かってもら
える。こうしたものはこれまでなかった。
さらに、自分の障害や病気を知られたくない
けど、ちょっとした助けが必要という人に寄
り添ってくれるのがヘルプマークなんです」



と指摘します。

必要な人に届かない

その一方で渋谷さんは、「ヘルプマー
クは必要な人に行き渡っていない」と
言います。

ベッドから情報発信する渋谷さん

東京都は、一定のルールに従えばヘル
プマークの作製・活用を認めていて、
2月までに北海道や神奈川県、大阪府
など全国20の都道府県が配布を始
めましたが、場所によってはまだ手に

入りにくいのが現状です。

さらに、マークを受け取りたくても取りに行けない人もいます。突然、息切れやめまいなどに襲われるパニック障害で電車に乗れなかったり、人との交流を恐れる不安障害で配布窓口に行けなかったりするのだと渋谷さんは指摘します。こうした背景があるからこそフリマアプリでの売買が後を絶たないと見られるのです。

“気づかなかった”をなくしたい

ヘルプマークは、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて共通のマークにしようと、去年、JIS＝日本工業規格に定められました。ただ、ヘルプマークを付けていたのに意味を理解してもらえなかったという声もあり、まだまだ認知度が低いのも事実です。

渋谷さんは、より多くの人に知ってもらうため、ベッドの上からネットでの情報発信を続けています。「気づいてほしい」「気づけなかった」をなくしたい。――多くの人たちの願いです。

都立汐入公園に学童クラブ 4月から 特区活用し全国初 産経新聞 2018年3月20日 東京都立汐入公園内にオープンする学童クラブ＝荒川区南千住(都提供)



東京都荒川区は、国家戦略特区制度を活用し、4月から同区南千住の都立汐入公園内に、小学生を放課後に預かる学童クラブを開所すると発表した。区によると、制度活用で学童クラブが開かれるのは全国初。



都によると、政府は平成27年、国家戦略特区に限って公園内で保育所など福祉施設の設置を解禁。これまでに都内では代々木公園（渋谷区）や祖師谷公園（世田谷区）など待機児童の多いエリアで保育所計10カ所が設置されたが、学童クラブの開設は初めて。

29年6月には、特区に限らず全国で公園内に学童クラブなどが設置できるよう都市公園法の規制が緩和されたが、荒川区は法改正前に学童クラブ開設のための特区認定を受けていた。

学童クラブは、鉄骨造2階建てで面積は延べ約250平方メートル。近くの区立汐入東小の1～3年の児童70人が利用する。

周辺はマンションが多く近年児童数が増加。学童クラブの需要も高まっていたが、汐入東小では敷地内に設置する用地がなく、近隣の小学校の学童クラブなどを利用していた。区の担当者は「制度活用により、学校の目の前の公園に学童クラブを設置でき、児童や保護者にとっても良かった」と話している。

今月31日に開所を記念した式典を開き、西川太郎区長らがテープカットを行う。

防災意識、高めよう 子ども食堂で非常食を試食 福祉新聞 2018年03月20日 編集部

埼玉県越谷市の越谷こども食堂で11日、地域の子どもや高齢者らが非常食を食べ、東日本大震災を忘れずに防災の意識を高めるイベントが開かれた。NPO法人地域こども包括支援センター（野口和幸理事長）の主催。

同日は梅わかめご飯やチキンライスなど4種類の非常食（アルファーマイ）を試食した。企業から備蓄品の入れ替えに伴って提供されたという。作り方はお湯か水を入れるだけ。お米はふっくらして味もしっかりついており、参加者は想像以上のおいしさに「普通の食事としてもおいしく食べられる」「食べ物がない震災時だったらもっとおいしく感じるは

ず」と話した。

梅わかめご飯やチキンライスなどを試食した

続いて宮城県出身の児童文芸作家・光丘真理さんが、津波被害にあった子どもたちの実話をもとにした絵本「タンポポ～あの日をわすれないで」を朗読。小学2年の男の子は「震災の話は聞いたことあるけど、こんなに怖いことだったとは思わなかった」と話した。

同食堂では夕食を提供するほか、制服をリユースしたり伝統文化を子どもに伝えたりする活動も行っている。野口理事長は「こども食堂を地域のコミュニティや防災の拠点にしたい。困ったらこども食堂に行けばいいと思うてくれたら」としている。



広がるフードバンク 県内「受け取り箱」増／企業連携も 東京新聞 2018年3月21日
きずなBOXを設置し、協力を呼びかける西村会長＝水戸市の水戸京成百貨店で



家庭や企業で眠る食品の提供を受け、福祉施設や生活に困っている人を支援する団体に届けるフードバンク活動が、県内でも広まっている。NPO法人が進める食品の受け取り箱「きずなBOX」の設置箇所は増加中で、企業連携も拡充しているという。（鈴木学）

水戸市の水戸京成百貨店地下一階食品総合カウンターに今日八日、きずなBOXが設置された。レトルト食品など主に賞味期限まで二カ月以上ある常温保存可能な食品の提供を受ける箱で、県内で六十八カ所目。水戸京成百貨店の西村寛会長は「お客さま、地域の方々とともに社会貢献し、食べ物を大切にする文化の向上に努めたい」と語った。

NPO法人フードバンク茨城によると、きずなBOXの設置は二〇一六年六月に十七カ所だったが、一七年十一月には五十六カ所に増加、さらに約四カ月で十カ所以上増えた。

企業連携は一七年度、県経営者協会の協力を受けたことで、各社から防災備蓄品の寄贈、規格外の業務用食品の提供の動きが出ているという。フードバンク茨城の大野覚理事長は「活動の広がり到手応えを感じる」と話している。

フードバンク茨城は、県央地域で活動を担うボランティア育成セミナーの参加者を募っている。二十四日午後一時半から水戸市の県立健康プラザで開催、定員四十五人で参加無料。活動など詳細は、フードバンク茨城＝電 029 (874) 3001 (月・水・金曜午前10時～午後四時)＝へ。

唐津に県内初の児童心理治療施設 発達障害や心の病をケア 特別支援学校分校も

佐賀新聞 2018年3月21日

子どもの心の医療的ケアを総合的に担う児童心理治療施設「好学舎（こうがくしゃ）」が4月、唐津市双水に開設される。虐待などが原因で精神が不安定になり、社会生活が困難になった小中学生を受け入れる。特別支援学校の分校も施設内に設けて学びの場を保障する。児童心理治療施設は佐賀県内では初めてで、社会福祉法人佐賀整肢学園（中尾清一郎理事長、佐賀市）が運営する。

児童心理治療施設（旧情緒障害児短期治療施設）は、発達障害があったり、家庭環境や学校の交友関係など、さまざまな影響で心の病を患った子どもたちに心理治療や生活指導をし、退所後も相談や援助をする。

20日に竣工式典が開かれた県内初の児童心理治療施設「好学舎」。右が唐津特別支援学校好学舎分校＝唐津市双水

厚労省の調べでは、児童心理治療施設は2016年度末で34道府県に46カ所あり、佐賀県内にはなかった。児童相談所が入所を判断し、これまで県内では、年間4～6人が福岡や長崎などの施設に入っていた。

好学舎は佐賀整肢学園からつ医療福祉センター隣に建設し、定員は入所30人、通所10人。全室個室で、男子棟と女子棟を独立させている。医務室や心理検査室も備え、医師や看護師、保育士、家庭支援専門の相談員ら24人で運営する。

義務教育期間の子どもたちが暮らす施設という特性から、県教委も唐津特別支援学校（唐津市山本）の分校を置く。施設の医師らと協力しながら治療を支える。

施設の建設費は4億3977万円で、3億3427万円を県や国が補助する。人件費や入所者の生活費も国や県が交付する。

20日に山口祥義知事ら約110人を集めて竣工（しゅんこう）記念式典が現地であった。中尾理事長は「受け入れができるかどうか、真剣に悩んだ時期もあったが、先進事例を見る中で必要な施設との思いが職員に浸透した。この立派な施設に魂と気持ちを注ぎ込みたい」と語った。



介護現場 シニアに注目 読売新聞 2018年3月21日

◇県「助手制度」職員の負担軽減

◇清掃や寝具交換中心 15施設50人採用見込む

介護助手として部屋の清掃を行う勝瀬さん（徳島市で）

人手不足が懸念される介護現場で、作業の一部をシニア世代に担ってもらおう県の「介護助手制度」が注目されている。特別養護老人ホームなどで、清掃や食事の片付け、寝具の交換など専門知識が不要な業務が中心。昨年

11月から3か月間、試験的に雇用したところ、募集した30人を上回る38人が採用され、うち27人が継続雇用となった。働く意欲のある高齢者の関心は高く、県では4月以降、15施設で50人程度の採用を見込んでいる。（古市豪）

試験雇用では、54～78歳が採用され、平均年齢は67歳。週16時間程度、徳島市や阿南市など6市町の12施設で1月まで勤務した。賃金は時給850円。県が研修費として3分の2を負担したが、助成がなくなった2月以降も、12施設で雇用が継続された。

総務省の人口推計によると、2016年10月1日時点の県の高齢化率は31・8%で、全国で5番目に高い。高齢者が増える一方、介護職員は減少傾向にあり、県は、20年に574人、25年には1491人の介護職員が不足すると試算する。

このため、県は専門的に介護を行う職員の負担軽減策として、シニア世代に着目し、昨年11月に同制度を創設。予想外にシニア世代の反応はよく、募集人数を上回る応募があった。

特別養護老人ホーム「ヒルズ」（徳島市八万町）に勤める小松島市の勝瀬桂子さん（76）は「家でテレビを見ている時間をもったいない。まだ働いている方が生活に張りもある」と話す。

同施設では、75歳以上の介護助手3人を採用。平日の4時間、清掃や室温管理の業務を行う。木村美和施設長（49）は「非常に助かっている。『もっと働いてもらいたい』と言う介護職員も多い」と語る。

県長寿いきがい課は「勤務時間の折り合いがつかない人がいるなど課題もあるが、働き

手と雇い手の双方を増やしながらいまうまくマッチングしていきたい」としている。

県社会福祉協議会は23日、介護助手を雇用した施設関係者らによる成果報告会を開く。介護助手に関心のある人や雇用を希望する人が対象。問い合わせは同社協(088・654・4461)。

「人も魚も貝たちも」 作家ら、石牟礼文学語り合う 朝日新聞 2018年3月21日

水俣病の実相を描いた小説『苦海浄土』(1969年)で知られ、2月に90歳で亡くなった作家、石牟礼道子さんをしのぶ会「石牟礼道子の宇宙(コスモス)」(藤原書店主催)が11日、東京都新宿区の早稲田大学で開かれた。人間と自然がともに傷つけられた苦しみに向き合い、紡がれた石牟礼さんの言葉。その言葉をどう受け継いでゆくか、ゆかりの作家らが語り合った。

「水俣病は、ものを食べる人なら誰でもかかり得た病。(被害者は)私だったかもしれない、という想像力を伝えていきたい」

石牟礼道子さん

『苦海浄土』を読み、石牟礼さんの熊本市の療養先や、熊本県水俣市を訪ねるようになった作家、赤坂真理さんはそう語った。

有機水銀を含む工場排水を海に流し続けたことで魚介類が汚染され、水俣病を発生させた企業チツソ。一方、その工場で作られた化学原料が日本の高度経済成長を支え、私たちの生活を豊かにした側面もある。

赤坂さんは原子力発電所に、よく似た構図をみる。原発による電力を都市部へと送り、経済成長を支えた福島は「水俣と似ている」とも話した。

60年代から交流のあったルポライター、鎌田慧(さとし)さんは「石牟礼さんは、僕らが公害や運動を書いた言葉とは、まったく違う言葉を生み出した」と振り返った。

鎌田さんは〈みしみしと無数の泡のように、渚(なぎさ)の虫や貝たちのめざめる音が重なりあって拈(ひろ)がってゆく……〉という『苦海浄土』の一節を朗読。人も魚も貝たちも「ひとつつながりの生命」ととらえ、それが人間の営みによって破壊されたとみる石牟礼さんの視点に「影響を受けた」と明かした。

講演を任された作家の高橋源一郎さんは、幼児期に脳炎にかかり障害の残った息子のことを話し始めた。

同じように障害のある子どもの保護者たちが「この子がいなければ、私は傲慢(ごうまん)な人間のままだった」と話す姿に強い印象を受けた高橋さん。障害者施設に通うようになり、重い障害のある乳児を抱かせてもらったことがあるという。

「人間がこんなにも、というほど厳しい(乳児の)視線。でも生きている。そう、腕の中で感じた。その時、石牟礼さんが水俣病患者の少年を書いた意味が、初めて自分の肌で実感できた」

高橋さんは、石牟礼さんの言葉に「世界のあらゆるもの(命)は、つながりがある」という思想をみる。「いま私たちのまわりにあるのは、分断と断絶の言葉。でも、石牟礼さんが残した言葉の森の中に、救いとなる考え方がある気がする」

失われたもの 想像させる力

石牟礼さんを悼む作家たちの言葉を聞きながら、自伝的エッセー『椿(つばき)の海の記』の一節が思い浮かんだ。

〈この世は生命あるものたちで成り立っている。この生命たちは有形にも無形にも、すべてつながりあって存在していた〉

石牟礼さんが本紙に連載したエッセー「魂の秘境から」(2015年1月から西部本社版、17年4月から全国版)。パーキンソン病と闘いながら、亡くなるひと月前まで口述筆記で伝え続けようとしたのも、この「命つながる世界」のことだったのだと思う。



17年春から、口述筆記のお手伝いをさせていただいた。呼吸が苦しくなる発作に、日に何度も襲われる。そのわずかな合間、ぼつりぼつりと語られるのは、幼い日々のこと。貝や魚があふれ命さざめく渚や、キツネや妖怪たちが夜な夜な集うという海辺の塘（とも）（土手）の思い出だった。

水俣病について、直接語ることは少なかった。それでも、石牟礼さんのつぶやく言葉によって、目の前によみがえる美しい不知火（しらぬい）海の情景の背後には、やがて訪れる病の影がびたりと貼り付いて見えた。

石牟礼さんの言葉は、読む人をおかして確かに存在した豊饒（ほうじょう）な世界へと引きこむ。同時に、その喪失に立ち合わせる。人の営みによって何が失われたのか、想像させる。石牟礼さんが、その身を削って紡いだ言葉の力にほかならない。（上原佳久）

『魂の秘境から』は4月20日、朝日新聞出版から刊行されます。

社説 教員の給与制度 残業削減につながる見直しを 読売新聞 2018年03月21日

教員の給与制度は長時間労働の温床とされる。改善を急ぎたい。文部科学省の中央教育審議会が、教員の給与等に関する特別措置法（給特法）の見直しについて検討を始めた。教員の働き方の改善が目的だ。自民党教育再生実行本部も論議を進めている。

1972年に施行された給特法は、教員の残業代を支払わない代わりに、基本給の4%を一律に上乘せると定める。月8時間分の手当に相当する。当時の教員の残業時間を基に算出された。

学校現場の状況は様変わりしている。「ゆとり教育」の見直しで、教える内容や授業時間が増えた。総合学習などでは、地域との連携や準備に手間がかかる。中学では部活動の負担が重い。

教員の平日の平均勤務時間は10年前より30～40分延びて、11時間を超えている。小学校で3割超、中学で6割近くの教員が「過労死ライン」とされる月80時間以上の残業を強いられている。

実態と給与制度がかけ離れているのは否めない。

校長には教員の長時間労働を抑制する責務があるが、多くは勤務時間の把握すらしていない。残業代を支給しない仕組みが、甘い管理につながっているのだろう。

現行制度は、校長が命じられる教員の時間外勤務を、校外実習や学校行事、災害対応の緊急事態などに限定している。部活動や授業準備、生徒指導を教員の「自発的行為」と位置付けているのは、無理があるのではないか。

教職員組合は、給特法を廃止し、時間外勤務の長さに応じて残業代を支払うよう求めているが、ハードルは高い。厳しい財政事情の中、国だけで年3000億円以上が必要になるとの試算がある。

中教審や自民党の議論では、残業代は不支給のまま、代わりに休日を付与する案が出ている。児童生徒のいない長期休暇を活用する手法は検討に値する。1学期中に残業が多い教員については、夏休み中の出勤を減らす。それによって、年単位で見れば、勤務時間の削減が期待できる。

ただし、最優先すべきは、残業時間の削減を徹底することである。教員が行うべき業務の範囲を明確にし、事務作業を補佐するスタッフや、部活動の指導にあたる外部人材の活用を進めたい。

文科省が勤務時間の上限を数値目標として示すのも有効だ。

教員の働き方は、授業の質に直結する。保護者の理解と協力を得ることも重要である。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

